

Message

わたしたちは、南風原町の新しい政治リーダーを目指す
赤嶺リュウトさんを**応援**しています。

※ 所属・職名等は全て2026年1月27日時点



京都府与謝野町長
前全国若手町村長会長
山添 藤真

南風原の皆様が育んだ若き青年が人生を賭けた決断をしました。今を生きる皆様のために、未来を生きる子ども達のために全世代に愛されるリーダーになると確信しています。



秋田県大館市長
全国最年少市長・28歳
石田 健佑

私は、若者だけでなく多くの高齢者に支持していただき、27歳で市長に就任しました。南風原町の全世代の皆様とリュウトさんが「共に変えていく」まちの未来を応援します。



岐阜県美濃加茂市長
元全国最年少市長
藤井 浩人

リュウトさんは、誰よりも覚悟を持ち、誰よりもみんなに寄り添えるリーダーです。そんなリュウトさんと共に南風原町が大きく発展していくことを心から楽しみにしています。



琉球アスティーダ
スポーツクラブ(株)代表取締役
早川 周作

赤嶺くんから挑戦の決意を伺ったときは正直驚きました。今その驚きは期待に変わっています。挑戦する彼の姿は、子どもたちに大きな夢と希望を与えてくれるはずで。



株式会社okaraokara
共同代表
崎濱 花鈴 / 知念 杏珠

生まれ育った南風原のために立ち上がる勇氣と行動力に感動しました。いつも目の前の人のために力を尽くせるリュウトさんを、新しい時代のリーダーとして応援しています！



沖縄松濤館館長
南風原こども会
育成連絡協議会会長
春田 憲佑

南風原で若い力が頑張っている。それだけで明るい未来があると感じます。そして、行動で道は開けると未来の世代に示して欲しい！全力で応援します。元気・やる気・本気・気合い・頑張るぞ！



社会福祉法人 愛恵福祉会
よなほ保育園 園長
前城 恵子

よなほ保育園、学童クラブの卒園児のリュウトくん。職員一同、驚きでしたが、南風原町の新しいリーダーとして南風原町のために立ち上がる勇氣、意気込みに感動しました。職員一同一丸となって応援します。



肉屋サンクロゼ
オーナー
下里 祐太

リュウトさんの語る南風原の未来に毎度ワクワクします。大きな夢を持ち小さなことに一生懸命になれるリュウトさんは、より良い暮らしへと導く最高のリーダーとなり南風原町を豊かにしてくれと確信します。リュウトさんと共に育むまちづくりが楽しみです。



株式会社ひだまり
代表取締役
新垣 大地

エネルギー溢れるリュウトくん。25歳という若さで町の未来に挑戦する彼の決断は、本当に勇氣のいることです。年齢ではなく「どれだけ本気か」が大切だということを行動で示してくれています。この挑戦が南風原に新しい風を吹き込むと確信しています。



新開自動車整備工場
自動車整備士
阿嘉 克次

赤嶺さんはお若いのに町のこと、人のことを本気で考え、誰に対してもまっすぐで誠実。話をしていると自然と「この人なら任せられる」と思える人です。南風原町を安心して暮らせる次の世代につなげられる町にしてくれると信じています。心から応援しています。

2001年1月生まれ **25歳**
赤嶺リュウト

生まれ育った南風原を
日本一「人を育む」まちへ



発行：赤嶺リュウト（あかみね・りゅうと）

〒901-1111 南風原町字兼城695-4 info@ryuto-akamine.com

プロフィール：2001年1月27日生まれ（25歳）、2026年3月琉球大学理学部卒業予定。
沖縄県南風原町で生まれ育ち、現在も妻と二人で町内に在住。北丘小学校・南風原中学校と進み、2019年に知念高校を卒業して同年、琉球大学に入学。2021年に大学を休学して町内で学習塾を立ち上げ、小中学生向けの個別指導を行う。塾生たちの学ぶ喜びや成長する姿に寄り添い、その保護者とも対話を重ねていく中で、すべての世代が個性・能力を発揮し活躍できる「人を育む」地域政治を担いたいという想いが芽生え、生まれ育った南風原町の政治リーダーを志す。

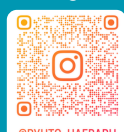
ホームページ



LINE公式



Instagram



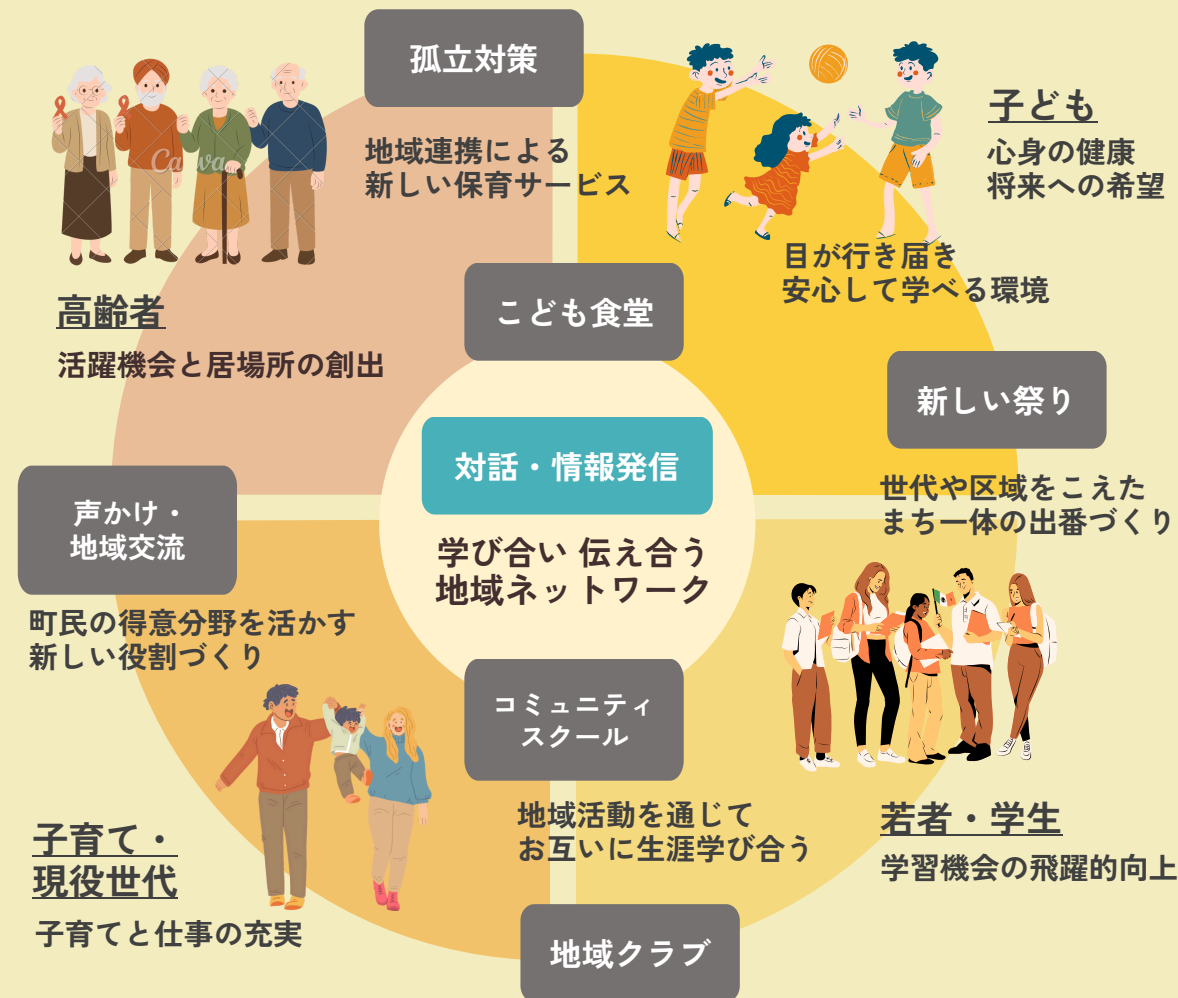
※このチラシは、赤嶺リュウトの活動や考えを紹介する個人的な発行物です。特定の組織・団体等とは関係がありません。

豊かな住環境を活かし、「人への投資」と「対話・情報発信」を徹底！
すべての町民が生涯活躍し、子どもたちが希望を持てるまち・南風原をつくります。

日本一「人を育む」まち。その対象は子どもだけでなく、若者も、子育て世代も、高齢者も、このまちで暮らす全ての町民です。これまでの距離がある政治から、誰もが参加したくなるようなワクワクする開かれた政治を目指し、情報発信を土台に町民と共に育むまちづくりに全力を尽くします。そして、町民との継続的な対話を大切に「あなたの近くにいつでも頼れる・参加できる政治がある」を南風原町の日常にします。

「人への投資」×「情報発信」
＝地域ネットワーク構築

南風原町は、利便性が高く、人口が増え続けており、若者も多い元気なまちとして知られています。しかし、町民の個性や能力を掛け合わせることで、さらに成長・発展できる大きな可能性を持っています。豊かな住環境を活かしながら、徹底した「人への投資」により、子どもから高齢者まですべての町民が生涯活躍できる地域政治を行います。そして、「情報発信」を徹底することで、行政サービスが分かりやすく伝わり、町民同士のより良いコミュニケーションができる豊かな地域ネットワークを構築します。



主要政策

1 支え合うネットワーク

子どもの数に対して学校が少なく大人の目が行き届きにくい一方、孤独を感じ交流を求める町民が増えています。この両者が支え合い、学び合う新しい地域ネットワークを構築します。



2 孤立対策×保育サービス

時間に余裕のある高齢者と幼児・子ども世代の交流の場をつくり、町民の孤立対策・活躍機会づくりと新しい保育サービスを両立させます。



3 町民活躍の機会創出

町民一人ひとりの得意分野が発揮される地域交流活動（例えば地域クラブや子ども食堂など）を応援し、地域の中での新しい役割と活躍の機会を創出します。



4 コミュニティスクール推進

学校にすべてを押し付けず、保護者や地域住民が積極的に参画し、放課後の活動などを充実させていくコミュニティスクール（学校運営協議会制度）を推進します。



5 新しい「祭り」づくり

町民が区域や世代を越えて参加し、町が一体となる新しい「祭り」を創出することで、誰もが出演と役割を持てるまちづくりを行います。



6 情報発信・デジタル化

行政サービスが町民に分かりやすく伝わる情報発信やデジタル化を徹底し、町民との対話の場を常につくることで、想いを伝え合える身近な政治を実現します。



※ 上記は主要政策の一部です。

2001

誕生・南風原町の大人たちに見守られながら健やかに成長

公園や路地には、いつも子どもたちの声が響き渡る、気候・風土、暮らす人々までもがあたかなまち。わたしは、ここ「南風原」で生まれ育ちました。地元である北丘小学校、南風原中学校に通い、毎日走り回る元気すぎる男の子として成長しました。少々じっとしているのは苦手で、先生や大人に注意されることも多かったですが、たくさんの友達に囲まれていた学生時代でした。人を分け隔てなく、積極的に話す性格から、先生たちからは、まとめ役として頼られることが多かったように振り返ります。この頃から、人と関わることに對しての障壁がなく、多くの人とかかわることのおもしろさや魅力を感じていました。十人十色の社会やまちの在り方を肌身で感じ、コミュニティから孤立している児童を見かけると遠慮せず話しかけてしまうようなキャラクターでした。級長を自ら率先して行うなど「リーダー」になることを躊躇しない行動的な幼少期を過ごしました。



2016

学ぶおもしろさに気づき、琉球大学に進学

高校は知念高校に進学しました。活発すぎる少年だったわたしは、高校生活を通して、そのエネルギーを「学ぶこと」に向けてようになっていきました。学ぶ権利は、みんなが平等に持っていること、努力をすればその理解は深まり、自分の世界が広がっていく感覚を高校生の頃、実感しました。特に、苦手意識のあった英語に強い関心を持つようになっていったエピソードがあります。苦手を克服したい一心で英語ディベートの全国大会に出場し、沖縄県のプログラムを通してオーストラリアへ留学する機会をいただきました。異なる文化や価値観の中で生活する中で、世界の広さに触れ、近い将来は、国際感覚を武器に「世界を舞台に活躍したい！」という思いを強くしていきました。知念高校卒業後は、その志を胸に秘めたまま、家族と南風原町で暮らしながら通える、琉球大学へ進学しました。



2020

新型コロナの到来、視野が世界から地域社会へ

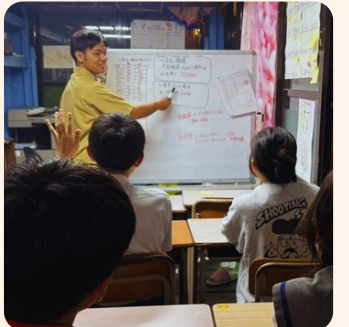
琉球大学に在学中、新型コロナウイルス禍中の影響もあり、留学などを通じて全国や海外を舞台に活動していくという当初の計画は大きく制限され、休学を選択しました。学業を止めるためではなく、大学の外にある課題を自分の目で確かめるためでした。休学中には、株式会社okaraokaraと共に産業廃棄物に関する取り組みに関わり、描く理想だけでは簡単に社会は動かず、その現場には幾重にも重なる複雑な事情や構造があることを知ることになります。同時に、不登校の子どもや学習支援にも携わるようになり、声を上げにくい現場の人々の実態が置き去りにされ、家庭環境や地域社会の仕組みが子どもたちの将来の選択肢を大きく左右しているという現実にも直面しました。これらの経験が、社会の構造や在り方を問い直す原点となっていきました。



2022

理想の教育を模索し、地域密着型の学習塾を開業

長引く新型コロナウイルスと大学休学の中で、物理的に立ち止まらざるを得ない状況の中で自分が何ができるのかを考え続け出した答えが「沖縄の教育に変化を起こしたい！」という強い思いでした。貧困や低学力といった課題を抱える沖縄の子どもたちの現実に真正面から向き合うことを決意し、その第一歩として地元・南風原町で地域密着型の学習塾を立ち上げることにしました。世界へ向いていたわたしの視線は、身近な地域社会へと向かい、そこで子ども一人ひとりに寄り添う実践的な教育づくりへと変わっていくことになりました。わたしの塾では成績向上だけでなく、それぞれが抱える環境や性質によって、将来の選択肢が狭まらない教育を重視し、現在まで塾生全員が成績を伸ばし、学業を通して人生を前向きに模索し切り拓いています。



2025

南風原町の新しい政治リーダーを目指す

妻とともに、この大好きなまちで暮らしています。このまちの持つ最大の財産は「人を育む力」だと思っています。子どもから高齢者までが、ゆるやかにもしっかりと支え合い、それぞれの抱く想いを次の世代へつないでいくまち。年代を越えた関わりの中で人が育ち、まちも育っていく。この南風原らしさや文化を守り、さらに大きく育て、日本一「人を育む」まちを実現したい、というわたしの夢は、いま日々の精力的な活動を通して、手の届くところまで近づいています。一方で、学習塾で子どもたちと向き合う中で、個人や民間の力だけでは越えられない壁があることも痛感したからこそ、この枠や立場を飛び越え、町全体で「人を育む」ステージへ自身も進んでいくため、政治の道を選びました。公教育を含めたまちのさまざまな制度や仕組みそのものを迅速に前に推し進めたいと考えています。



現在の活動

2025年11月から、南風原町内の各地で計7回の対話集会を開催しました。南風原町で暮らす一人ひとりのお声の中に、このまちをより魅力的にするためのヒントがたくさん詰まっていました。一緒に活動してくれる支援者や仲間もどんどん増えていきます。平日週末問わず、朝昼夕で街頭の挨拶活動も実施しています。

